

【ミャンマーの民主化を支援する議員連盟でのジン・マー・アウン外相のスピーチ】

最初に石橋先生、中川先生に、ミャンマー民主化のために長年にわたって私たち国民とともにミャンマー人たちの意向を反映させる立場へずっと関わってきてくれたことに感謝しております。また、今回の集会に出席いただいた国会議員の方々にも、一人一人に感謝の言葉を申し上げたいと思います。

今回、日本の国会に関わる場所でミャンマーの現状について話をする機会をいただき、そのために動いてくださった方々に感謝しております。

今日、日本の議会に訪問して私自身ミャンマーの国会議員として、民主化のためにいま、武装闘争に参加して、それに取り組みなければならない、と改めて思いました。

ミャンマーのスプリング・レボリューション、春の革命では、今の軍事政権が維持している2008年憲法のもとで今後やっていくつもりはありません。

より民主的で少数民族が求めている連邦制を保障する形での政治体制を自立していこうとしています。そのために多くの国会議員はミャンマー国民の意向を反映させながら、ある者は武装闘争に参加し、ある者は国境を越えて避難し、ある者は支援を行っています。

私は国会議員の一人として軍評議会がクーデターを起こした直後から CRBH、連邦議会代表委員会の設立を推進した一人です。そのことに誇りを感じています。

どんな困難があろうと国民の声を代表して行動していかなければならない。それが民主主義の基本だと考えている。スプリング・レボリューションは国会議員だけに関係する問題ではありません。もう一つの政治勢力が対等に、革命にはあらゆる人が関わる必要があります。少数民族武装組織、政党、ストライキ委員会、また軍政権の下で働くことを拒否した TDM に参加した市民、不服従運動に参加した公務員たちなど、いろいろな人たちとともに闘争に参加しなければなりません。

春の革命は2008年憲法のもとに再び戻ることはありません。古い過去の時代に再び戻ることはありません。また、権力を握っている一つの勢力から権力を取り戻す、支配者を変更する闘争でもありません。民主主義、平和、民族の自治権の実現など体制自体を変更する闘争に私たちは参加している。諸々の体制の転換を行っているのです。今回の闘争は体制を変えることです。そうすることで将来、クーデターが起こらなくなるのです。ミャンマーの選挙で当選した国会議員は国民とともにその闘争に参加している。

東京を訪れて街頭を歩きました。いまの多くの若者の姿を見ました。そこで、日本の若者たちは平和に教育を受けることができている。安全であり自由に生活できていると思いました。一方、ミャンマーの人々はジャングルの中で体制を変えるため命を犠牲にしながら闘争に参加し

ている。そうした命を犠牲する若者がいる中、この革命を絶対に成功させたいと強く思うのです。

日本の国会がミャンマーの国ために、ミャンマー国民の意向に沿う形で国会の決議をしてくれたことに感謝しています。民主主義と人権の実現、連邦制の実現のために日本の国会、国民、政府の方々がミャンマーの国民の立場にたって、寄り添ってくださることを心から願っています。

苦しい時に寄り添ってくれる友人が真の友人だという言葉があります。日本が真の友人であることを期待しますし、そうであることを信じています。私のそばに座っている議員の方が長年ミャンマーを応援してくださっていることを嬉しく思っています。

私たちの革命、闘争の最近の状況について語りたい。この25日くらいの間に、ミャンマー北部の少数民族の武装組織が春の革命に参加し、多くの国軍の基地を攻撃しました。クーデターから3年近い間、ミャンマー国民の支援でやってきた。国際社会からの軍事支援はいっさいありません。国内外のミャンマーの国民が寄付をしてくれて支援してくれ、この革命は成り立っているのです。軍評議会に対して強く訴えたいメッセージとして、ミャンマー国民は彼らの支配を受けないという強い思いをもっています。内外のミャンマーの国民は2年半にわたって支援と支持をしてきたわけです。NUGの財務省がファンドレイジングなどで得たおカネは1億6000万USドルになります。

いま、我々が掌握した地域に行政機関を設置し、税を徴収することをやっている。ミャンマーのおカネで700億チャットの徴税ができています。そうした自らの支配地域は統治が保たれています。

人々は軍の支配に反対しています。人民が自ら統治する状況ができています。革命に参加する様々な組織や将来のことについて、こういうものがあります。それがフェデラルデモクラティック・チャプター、連邦民主憲法です。それをどのようなものにしていくか。基本的な方針、内容を書いている。それぞれの民族が合意した内容になっています。

日本はミャンマーに関して三つの目的をもっていると私は理解しています。二国間関係で一つは民主主義の発展、二つ目は国民和解、三つめは経済的な発展です。この三つを重視して関係を構築してきたと理解しています。2021年2月1日の軍事クーデターによって、日本の目的な壊されたと私は理解しています。

日本のミャンマーに関する目的を取り戻すためには、春の革命で連邦国家になることが必要で

す。NUG、CRPH,その他の諸勢力とともにミャンマーでは新たな国家体制をつくる努力をしているので、それに対して日本はもっと明白な支持・支援の立場を示していただきたいと強く願っている。

春の革命に参加するいろいろな勢力の願いは、軍事独裁体制の打倒、連邦制民主主義国家の実現です。そうした戦いはかなり進んでいる状況です。国際社会が、友好国がより明確な支援ができるならば、もっと早くミャンマー国民の苦難は終わりにすることができると思う。そして日本のミャンマーに対する期待もより早く実現できると思う。どうか私たちの立場にたって、私たちに寄り添ってくださいませよう、宜しくお願いします。

(文責・にほんごぶらっと)